

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071000168		
法人名	株式会社 ブッセ		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	群馬県富岡市宇田 77-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは利用者様にとって心地の良い生活が送れるように利用者様の気持ちに寄り添い、ご家族様が安心して任せていただけるよう希望に沿ったきめ細やかな支援に努めています。利用者様1人1人に合ったケアができる様、食事はもちろんレクや生活援助を柔軟に個別で対応できるように心掛けております。利用者様の生活が穏やかで安心して過ごせるよう職員全体で認知症への理解を深め、連携を取りながら情報を共有し、より良いケアに繋がるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=1071000168-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和6年2月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者には安全な生活が送れる支援を、家族には安心してもらえる情報提供に努めているグループホームである。利用者により寄り添い見守りながら、どのような不安を持っているのか、自由に穏やかに過ごしてもらうためにはどうしたらよいかを話し合い工夫をしている。家族には毎月個別にホーム便りを発行しており、利用者の日頃の様子を知らせる写真と文章を添えている。ホーム便りは家族とのコミュニケーション手段にもなっている。コロナ感染症の区分が5類になった今年度、初めて感染者が出るという経験をした。重症者はいなかったが、今回の経験を通し、感染症防止の為に物品の見直しや工夫点、居室で過ごしてもらう際の利用者が機能低下をしない支援方法、感染症を広めないために利用者のいつもと違う体調の変化に敏感に気づくことの大切さと気を緩めることなく支援する事を確認しあっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、現在入所されている利用者様の望むケアに基づいたものを職員間で考え、そのためのケアをどのようにしていくのか常に意識しながら実践していく。職員だけでなく、利用者さまや家族の方とも共有するために目につく場所に掲示している。	理念を基に、住み慣れた地域での生活と利用者本位の生活支援について職員で話し合い、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と積極的に交流することにより、お互いの情報を交換して安否確認や、畑で取れた野菜などをおすそ分けしてもらえる関係性が築けた。	近所の住民と挨拶を交わしたり、野菜をいただくこともある。一人暮らしの住民との日頃の会話から「困ったときは声をかけるよ」と言われている。保育園児が事業所横の空き地で過ごす姿を利用者は窓から眺めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症拡大が心配されるので地域の行事などには参加できてはいないが外出行事や病院受診など交流する機会ができた時には会話をしたり、こちらが行っているケアを見ただけながら理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は感染症の関係で出来なかったことも多いがその時は書面開催し、書面も関係者の方に送付させていただいている。市からも書面について電話を頂きながら意見交換が実施できている。	運営推進会議はコロナ感染症の状況に对应し、直接開催と書面開催で実施している。会議録は玄関に掲示している。	運営推進会議が家族の意見も反映できる場になる様、家族の参加を働きかけてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響で会議などが対面でなくzoomなどが多くなっているので通信環境を整え、市町村の会議など参加できるように努力している。その他にも電話や包括の方に出向き、連携が取れる関係性が保たれている。	行政の窓口へ直接出向いたり電話で相談している。介護保険の更新の代行や認定調査の立ち合いを支援をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的な会議の開催を実施。拘束をしないケアをチーム全体で目指し、拘束の弊害について職員が理解できるように日頃から話し合っている。	玄関は夜間のみ施錠している。身体拘束の無いケアを会議で確認している。夜間のみベッドの2点柵を使用している利用者がいる。使用時間の短縮や他の支援方法も試みている。家族には3カ月ごとに書面で確認をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がる不適切ケアを職員全体で気をつけながら施設内での不適切ケアになりそうな事例がある際には職員に指摘をし、不適切ケアにならないためにどうしていけばいいのか解決策を話し合っすぐに対応するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にご家族から虐待を受けた事例の利用者様が入所され、職員全体で権利擁護について話し合い、実際に家族の代わりに契約などを市町村に協力してもらいながら制度など活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネ、経理の担当が契約時に立ち合い、必要に応じた説明を行っている。疑問や不安などは十分に聞き取り、理解をした上で契約が行えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、メールなどのやり取りをして常に要望や意見が聞き取りやすい環境を整備し、それらを迅速に対応できるように職員間、運営と共有しながら対応している。月に一度利用者様の様子がわかるように個人個人の写真を付けた手紙を送付している。	家族には毎月個別に日常の様子と写真を載せた便りを発行している。利用者の様子が伝わり、「元気で良かった。パンを買ってほしい。手先を動かしてほしい。」等、家族とのコミュニケーション手段になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、休憩中の日頃の何気ない会話を大切に職員が意見を言いやすい環境にして職員の意見があった際には管理者が運営に伝え反映できるように努めている。	会議や申し送り以外の場でも、職員は情報や意見交換ができる雰囲気大切にしている。利用者支援の意見は、計画にも反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように本人の努力や、能力、協力する姿勢などを評価し、給料等に反映している。各職員のライフスタイルに応じて働きやすい環境にできる様勤務も組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人が興味があったり、必要としている研修を積極的に勧め、研修を受けやすいよう支援している。コロナ渦でzoomなどの研修が増えたので参加できるような環境整備を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で連絡協議会などの催しに参加できる機会が減ったが少しずつ交流が回復している。横のつながりで同業者と情報交換を行いお互いのサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時、入所時はもちろん普段の会話や表情、しぐさなどを常に観察し、本人の希望や不安要望を聞き取り、その思いを尊重できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等行い、希望の調査を実施している。いつでも相談できる環境を作り、相談しやすい状況づくりをした上で信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りやご本人の様子などから必要なサービスを分析して導入できるように本人・家族と検討を重ねたうえでご本人に合ったサービスを提供している。必要に応じて施設入所前の関係者や主治医にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の特性を考慮した上で無理強いない程度に役割をもってもらいながら家庭のように暮らしを共にする者助け合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会、手紙などお互いにやり取りする機会を設け協力してもらいながら一緒に本人を支えあう関係を築けるように努めている。面会時や毎月の手紙、メールなどで様子を報告させてもらい理解してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしていた馴染みの人とつながるよう手紙の投函や家族に連絡をしてもらいながら入所前の関係が途切れない様になっている。コロナの影響で面会規制はあるがなるべく安全な形で面会が継続できるようにしている。	家族とは玄関や庭先で面会してもらったり、家族に毎週手紙を書いている利用者への支援など、関係の継続を大切にしている。また日常生活の中で利用者のできる事は積極的にお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあえるように職員が仲介に入りながらお互いを理解してもらいながら穏やかな関係性を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、本人や家族の相談や支援を継続し、関係を断ち切らない取り組みを続けている。特養入所を控えての退所時等もできる限りの情報提供や協力を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の生活ができるように本人や家族の意向確認し希望を取り入れたプランを作成している。	入居時に得られた情報とともに、入居後の利用者の様子を見守りながら、改めて家族からの情報を確認し、介護計画に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や既往歴、家族構成や家族の関係性、職歴など本人と家族から情報収集し、本人が大切にしてきたことや物の情報を職員も共有しサービスに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の中で職員間で情報を共有し、利用者がその人らしく生活できる様現状の把握に努めている。変化があった場合も柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすために実際に本人や家族、主治医や職員同士の情報をもとに毎月モニタリングを行い援助方法を決めて介護計画を作成している。変化があった時にはすぐに報告し、迅速に対応できるようにしている。	モニタリングは担当職員が毎月行っている。介護計画の見直しは、日々の記録や職員からの情報、家族の意見を確認し、3カ月ごとに見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたことや気になることを記録に残し、その他に申し送りやノートなどで情報を職員間で共有している。身体拘束や特別な記録などは色分けをしてわかりやすくしている。薬の変更も職員が目につきやすい場所に掲示してこまめな調整ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族の状況に合わせたその時に合ったサービスを提供できるようにあらゆる角度からの情報を入手して最適な支援ができるように柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報収集をし、地域支援を把握し、本人に合ったものを活用して安全で豊かな生活ができる様支援している。家族などが手続きが困難な時は協力できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に合わせた病院が受診できるように対応している。病院の指定がない場合は施設の協力病院へ受診することを説明した上で納得した病院選びをしていた。受診の付き添いを支援し、情報交換を密にしながら最適な治療ができるようにしている。主治医とも信頼関係が築けており、あらゆる場面で協力をしていただいている。	受診方法は契約時に説明をし、選択してもらっている。定期・必要時の受診は事業所で支援し、家族に状況を報告している。歯科は定期的な訪問があり、必要な場合は治療を継続している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師がいいため系列施設の看護師や、かかりつけ医の看護師、訪問看護と情報交換をしながら協力してもらい医療行為が必要な場合に速やかに適切な対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会やムンテラの参加で情報交換を行い、病院側・家族と密に連絡を取りながら利用者が安心して最適な治療が受けられ、退院後も不安の無いように協力している。家族の負担が減るように施設で対応できることは実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人と終末期については早い段階から話し合いを設けその後終末期に差し掛かった時は再度家族の意向を確認して希望に沿った支援ができる様主治医や訪問看護などに相談しながら思いを共有し、チームとしてできる限りの協力をしている。	看取り支援の経験もある。入居時に書面で終末期についての意向を確認しているが、状況に応じ説明と意向の確認を行い、関係機関と連携し支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えたマニュアルを作成し、定期的なシミュレーションを行いながらその都度最適な対応ができる様普段から話し合いをしており実践している。急変が心配な利用者については職員間で連絡を取り、実際の場面でパニックにならない様に打合せを重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主訓練を含め年2回以上昼夜2回以上昼夜想定避難訓練を消防署員、市の職員や地域の人を含めて実施している。火事だけでなく地震などに備えた訓練や対策の話し合い、ハザードマップの周知、備蓄食料やカセットコンロ、水等も確保している。	直近1年では、夜間想定・消防署立会の総合訓練と、昼間想定総合自主訓練を行っている。ハザードマップ上の指定はない。備蓄は3日分の水やレトルト食品等を用意している。	自主訓練はレクレーションなど活用し、玄関までの避難誘導から始め、回数を重ね改善点を見つけていってはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを配慮した対応と言葉かけを心掛けている。親しみを持った声掛けが不適切ケアにならない様気をつけながら温かみのある声掛けや態度を指導し、職員間でも気になったら指摘しあえるようにしている。	異性介助については、入居当初は声掛け確認し、その後も利用者の意向に配慮している。部屋に入る際のノック、声の大きさ、混乱時の声掛けなど、利用者を尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしさを大切に暮らせるよう、生活の中で自己にて意思決定ができる機会を常に作るようにしている。押しつけや、職員本位にならない様まず、利用者様の気持ちを優先にできるよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人のペースや体調に合わせて職員が寄り添い、どのようにしたら利用者の希望が叶うか職員間で案を出し合いながら利用者の思いを優先して支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば美容院や買い物に行けるように支援しているが感染症の拡大の影響で外出に不安がある方もいるので買い物の代行を実施したり、施設内の散髪も本人の希望に沿った形にできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみな時間になるように利用者様に何が食べたいか伺って可能な限り対応している。季節の食材を使い、馴染みのある献立を心掛けている。麺が好きの方が現在が多いので麺の機会を増やしている。食事の配膳前の準備などできることは手伝っていただいている。	長事は、麺類を中心に業者から週3回分の食材を取り寄せているが、他は食材を買い提供している。飲み物は数種類用意しており、お茶の時間以外にも提供している。利用者がテレビを見ておやつをリクエストすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎食記録し、体調や尿や便の状態を把握して健康状態や習慣に応じたものを提供し、栄養や水分が不足しない様努め、定期的に病院で血液検査を実施して医療的な面からも栄養状態を確かめている。水分があまり摂れない方が摂れるような工夫をしている。食事以外もお好みの飲み物が取れる機会を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、一人一人に合わせた口腔ケアで清潔を保っている。歯磨きは仕上げ磨きまで行い、舌磨きも行っている。定期的に訪問歯科の訪問があり、口腔環境には気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の生活パターン、性格や能力に合わせて最適な排泄方法で行えるように声掛けやアプローチを行っている。記録などに残し、失禁を減少させトイレでの排泄が成功し快適に過ごせるよう支援している。清潔が保てるよう陰部洗浄も交換時、トイレ時行っており陰部などの匂いや尿路	トイレでの排泄を基本に支援している。自立の利用者への見守りや確認、声掛け誘導する利用者への支援と各々の状態に合わせている。陰部洗浄は毎日行い清潔に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表や記録をもとに排便の状況、性状を把握し、食事や水分、下剤などを工夫して便秘の予防や対応を主治医に相談しながら行い、一人一人の排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に日・月・水・木曜日に入浴日を設定しているが必要や希望に応じていつでも入浴できることを伝えている。基本の時間が午前中だが、午後や夜間などケースに合わせて実施できるようにしている。入浴が楽しめる様入浴剤や変わり湯の提供も行っている。	週4日、入浴日を設け、利用者には毎回入浴の声掛けをしている。入浴日以外の曜日でも支援はできる。1対1の支援が基本だが、寝たきりの利用者は2人介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠ができる様一人一人に合わせた適度な昼寝の確保。就寝時間は本人の希望に沿った時間にできるようにしている。温度や照明など気持ちよく入眠できるように調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルやお薬手帳、受診報告書と施設独自で作成した服薬状況表などを活用し、一人一人がどのような薬を服用しているか理解できるようにしている。薬剤師と連携をとり、相談できる環境づくりを整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人ができること(洗濯量など)ができるように支援している。レクなどで季節に合わせた折り紙や飾り物作り(リースや風鈴、お正月飾りなど)を積極的に取り入れ利用者も作品を個人の居室やシルバーカーなどに飾り、楽しんでいる。病院などでも作品について周囲の方が話し掛けてくれるので交流の良いツールになり、利用者の楽しみにつながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の影響で外出が減少している状況なので気分だけでも外出を味わえるよう庭に出てお茶を飲んだりして気分転換を図っている。お花見や道の駅に出掛けたり受診等の帰りなど少しドライブできるように少しずつではあるが外出の機会は増えている。	庭先での外気浴や2~3名で道の駅にドライブに出かけたり、受診の帰りにドライブをすることはあるが、コロナ感染症の影響で以前のような外出は難しい。	歩行が可能な利用者も多く、広い庭先を利用して、外気浴や散歩が日常的に気軽にできる工夫や取り組みをしてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承のもと、施設で所持金の管理をさせてもらい、本人の希望の際には使えるようにしている。月末に所持金の領収を家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用できるようにし、必要に応じて切手やはがきの購入、投函のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂温度や空調、日差しや湿度などを管理して快適な空間になるように配慮している。季節感が出るように花を飾ったりしている。定時に換気も実施して安心して過ごせるようにしている。	天井は高く、陽ざしが差し込む館内は明るい。換気は共用空間・居室とも適時行っており、気になる臭いもない。大きな曆や献立は利用者にも解りやすい。職員と一緒に出勤する訓練された3頭の犬が、利用者にとって穏やかな刺激になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと自室を自由に行き来して思い思いの時間を過ごせるようにしている。窓際で日向ぼっこが好きな方が増えたので椅子を設置し、利用者同士でお話したり、自室でテレビやラジオを楽しまれたり好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にはそれぞれが馴染みのある家具や装飾などをして本人が居心地の良い部屋になるようにしている。自立歩行が困難な利用者がベッドから下りてしまうので床に柔らかいマットを敷き、怪我の危険を減らしたことで本人が自由に動ける空間を作ったことで精神的に安定された事案もできた。個人に柔軟に合わせる整備を心掛けて	居室にはエアコンとベッドが、必要な場合は布団・衣装ケースも提供できる。利用者が使い慣れた物に囲まれ、思い思いに過ごしてもらえる様、状況に合わせた居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開放された造りなので利用者が安全で出来る限り自分の好きなように動けるようになっている。		